

第66回 はたらく女性の中央集会

コロナ禍でみえた女性たちの現状

2021年10月23日

首藤若菜(立教大学)

はじめに

1. 自己紹介

首藤若菜 (Shuto Wakana)

立教大学経済学部教授 労働経済論担当

専門: 労使関係論、女性労働論

主要業績;

『物流危機は終わらない——暮らしを支える労働のゆくえ』(岩波新書, 2018年)

『グローバル化のなかの労使関係——自動車産業の国際的再編への戦略』(ミネルヴァ書房, 2017年)

『統合される男女の職場』(勁草書房, 2003年)など

不均等な打撃

ILO、OECDの警告； 雇用危機の中心に女性がいる

例)『OECD雇用見通し(Employment Outlook)』2020年版

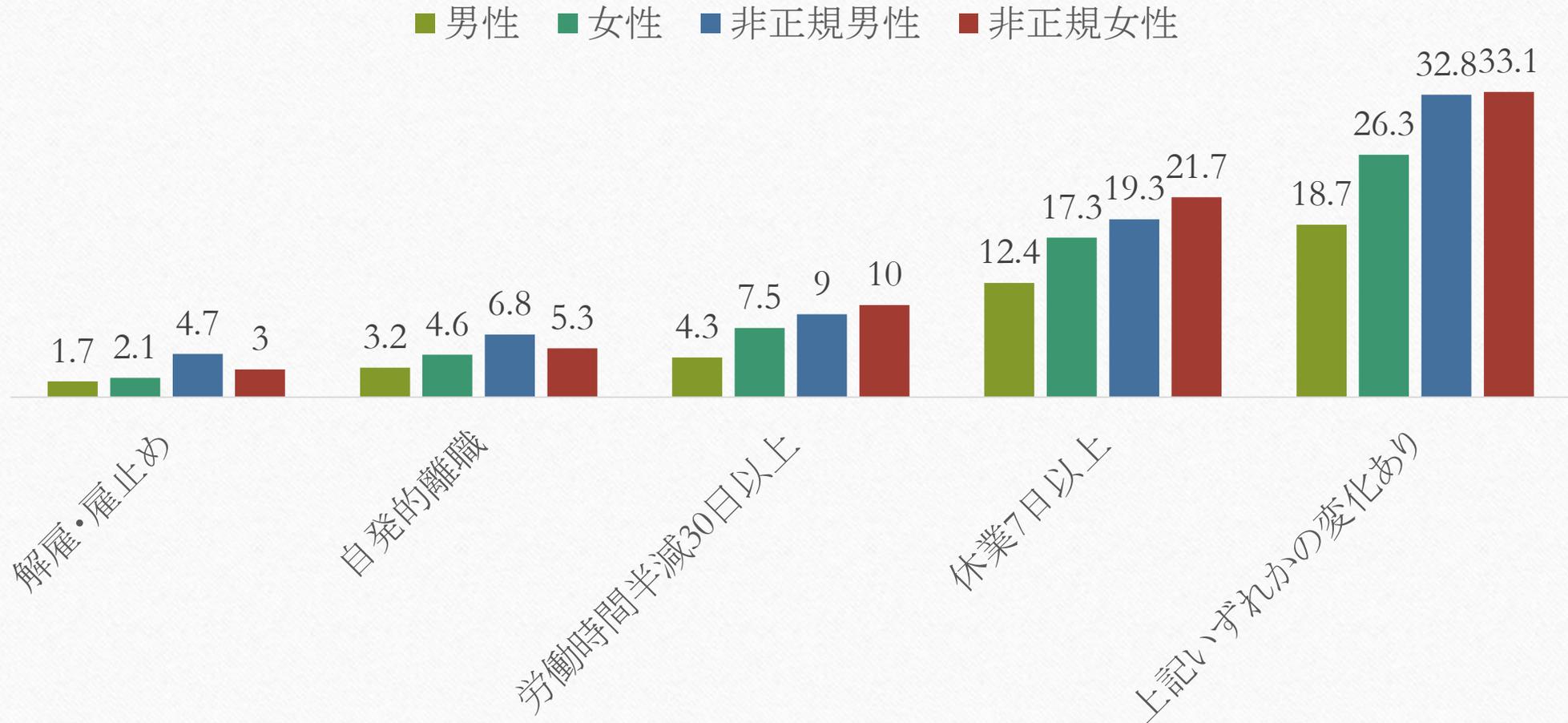
世界に共通して、女性の雇用は男性以上に減少している。

—危機の影響を受けている宿泊業や飲食サービス業などで女性が多い

—パートタイム労働者などの不安定な雇用に女性が多い

—ロックダウンによる外出禁止が、アンペイドワークを拡大させている

4月1日以降の7か月間、雇用に大きな変化が起きた民間雇用者の割合(%)



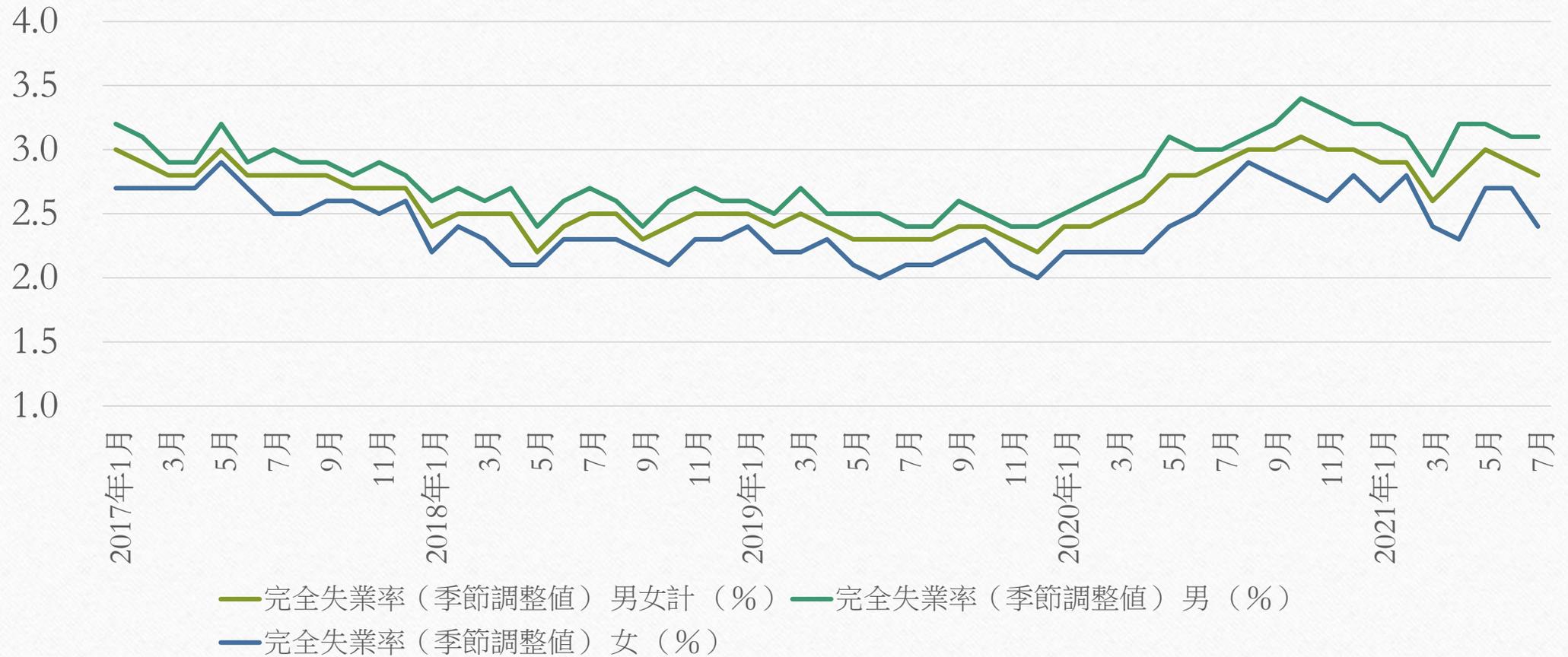
就業者数の前年同月増減(万人、原数値)



雇用形態別雇用者数(対前年同月増減、万人)



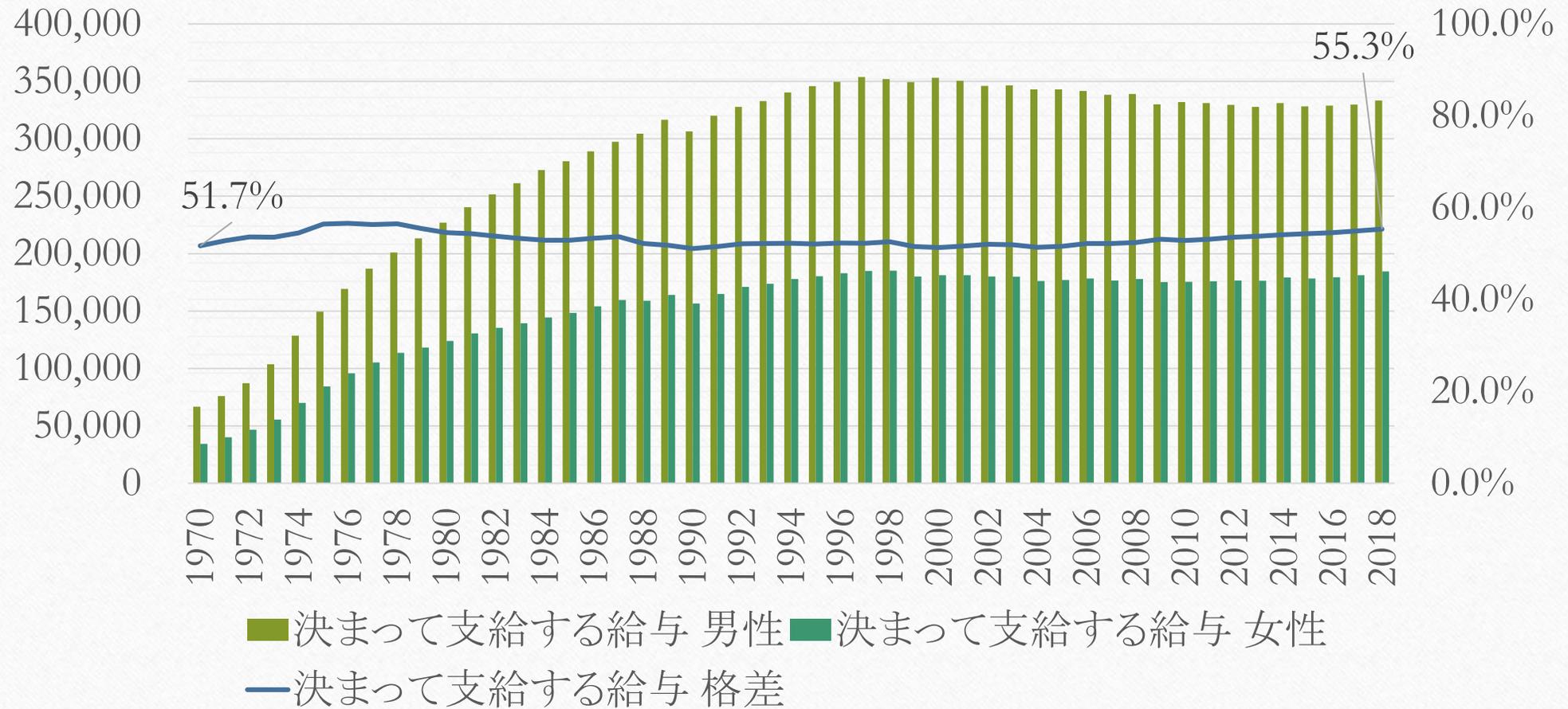
失業率の推移



しかし、今始まった話ではない

- 家事育児時間に、男女差がある
 - 非正規雇用者に占める女性比率が高い
 - 女性の方が解雇されやすく、雇用が不安定である
 - 男女間賃金格差が大きい、なかなか縮小されない
- ➡ これらのジェンダー不平等は、長い間、指摘されて続けてきた。
- 今さら、驚くことは何もない。なぜ、ジェンダー不平等は縮小しないのか。

決まって支給する給与額と男女格差



エッセンシャルワーカーと女性

エッセンシャルワーカー

社会を維持させるために必要な労働に従事する人々

例) 医療現場、介護、保育、清掃、物流、、警備、スーパーの従業員等

エッセンシャルワーカーに共通していること

深刻な人手不足、相対的な労働条件の低さ

有効求人倍率が高い職種例

	2021年2月時点
職業計	1.04
保健師・助産師・看護師	2.15
医療技術者	2.90
社会福祉の専門的職業	3.07
家庭生活支援サービスの職業	3.08
介護サービスの職業	3.70
保健医療サービスの職業	2.81
生活衛生サービスの職業	3.14
保安の職業	6.44
自動車運転の職業	2.18

おわりに

- ・変わらないジェンダー格差
- ・エッセンシャルワーカーの人手不足
 - 社会に必要な労働での労働条件の劣位性
 - 社会に不可欠な労働での深刻な人手不足
 - ➡社会的な基盤の揺らぎ

おわりに

労働条件は、誰が決めるのか？

- ・市場によって決まる、市場競争によって決まる →仕方のないこと
- ・政治的、社会的に決定される

例) 最低賃金制度

例) 労働時間規制

➡劣位な労働条件の仕事を、十分に報いある仕事に変えることができる